

病理部

【当科でローテーションしたら-これが売り！！】（2か月の例）

附属病院病理部には、毎日様々な診療科から病理検体（生検検体や手術材料など）が届きます。これらを適切に処理して標本を作製し、診断を行うことが当科のミッションです。

初期研修医が当科をローテートする際には、この一連の流れ（検体の固定→写真撮影→検体の観察と切り出し→パラフィンブロックの作製→薄切→染色→鏡検→診断報告書作成）を、病理専門医である指導者立会いのもと、主体的に経験することができます。

また、当科で日常的に行われている術中迅速診断に参加することも可能です。さらに、各診療科が開催する術前/術後カンファレンス、病理解剖（マクロ会を含む）、臨床病理検討会等に参加することもできます。

【専門研修に向けて(希望者には！)】

病理専門医を目指す人には、当院をはじめとする総合病院の病理診断科において高頻度に出会う病理検体について、偏りなく診断の機会が得られるよう、可能な限り配慮します。

当科が保存しているプレパラートを使って勉強することもできます。他科専門医を目指す人には、該当する診療科の提出する病理検体を診断する機会が多く持てるよう、配慮します。

【研修目標と評価】

一般目標

病理診断は病理医、病理技師、臨床医が密に連携して初めて成り立つ医療行為である。

日常診療で頻繁に遭遇する疾患、特に病理診断が治療の選択に必須な疾患に対し、最小限必要な外科病理学の基本的な診断能力(態度, 技能, 知識)を修得することを目標とする。

行動目標

1. 外科病理学の基本を修得する。
2. 病理診断科の役割を理解する。

チェックリスト《5段階評価》

知識：

1. 医療行為としての病理診断の重要性が理解できる。
2. 生検診断・外科病理診断、術中迅速診断、細胞診断、病理解剖による症例解析の重要性が理解できる。
3. 病理組織標本（検体）の基本的な扱い方を習得している。

技能：

1. 肉眼標本の観察法。摘出臓器を観察し、病変の形態、部位、大きさなどを客観的に記載することができる。
2. 肉眼標本の切出しの仕方。病変の的確な部位を切出しできる。
3. 病理解剖の基本手技を修得している。
4. 顕微鏡標本の基本的な観察法を修得している。
5. 主要な臓器において、基本的な病理診断ができる。
6. 基本的な細胞診断ができる。

詳しい検査をオーダーする能力：

1. 術中凍結切片診断法
2. 病理解剖（剖検）
3. 細胞診検査法
4. 免疫組織化学法
5. 電子顕微鏡的検査法
6. 分子生物学的検査法（in situ hybridization 法など）

指導医

大森泰文，南條 博，廣嶋優子，鈴木麻弥，三浦将仁

病理部ホームページ

<http://www.med.akita-u.ac.jp/cdtf/pathology.html>

病理部についてのご質問は、

南條 博

mail : hnanjo@med.akita-u.ac.jp

TEL:018-884-6182, FAX:018-884-6200

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8：30	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討	症例検討
9：00	診断	診断	診断	診断	診断
12：00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13：00	切り出し， 迅速診断	切り出し， 迅速診断	切り出し， 迅速診断	切り出し， 迅速診断	切り出し， 迅速診断
17：00	臨床病理カ ンファラン ス	臨床病理カ ンファラン ス	臨床病理カ ンファラン ス	臨床病理カ ンファラン ス	